

S U P E R
FORMULA

STAGE

superformula.net

2019 Vol.7

INDEX

- 2019 出場ドライバー紹介 ②③
- 今大会の見どころ ②
- 千代勝正が語るコースガイド ③
- ショートインタビュー 金石勝智 ④
- インフォメーション ④

Published JAPAN RACE PROMOTION, INC.
2-3-25 Kudan-minami Chiyoda-ku Tokyo

本紙への広告掲載のお問い合わせは —
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25
☎03-3237-0131
https://superformula.net

JRP
Japan race promotion inc.

INTERVIEW NO.7

VANTELIN TEAM TOM'S
ドライバー

ニック キャシディ

Nick CASSIDY

「ニック、キミはレースをするべきだ。僕にキミを手助けさせてくれないか?」

2014年のF1開幕戦オーストラリアGP。トロ・ロソンのダニール・クビアトは、傍らにいたニック・キャシディに言った。このレースはクビアトにとって正ドライバーとしてのF1デビュー戦。親友の晴れ姿を見るために、キャシディはともにサーキットへと足を運んだ。その時、クビアトに聞かれた。“今年は何に乗るんだい?”と。だが何もなかった。もうレーシングドライバーの道は諦めようと、レーシングカートチームを立ち上げたところだった。それを聞いて驚いたクビアトが手助けを申し出た。フォーミュラ・ルノー時代に自分が所属したチーム、コイラネンGPにすぐさま電話。これがキャシディのキャリアの扉を大きく開くことになった。

1994年8月19日にニュージーランド最大の都市オークランドで産声を上げたニック。自動車部品のプロダクト&セールスマネージャーとして働いていた父ピーター、そして母方の祖父ダリルと叔父ブレッドも趣味でクラブレースを嗜んでおり、ある意味モーターススポーツ家の生まれだ。物心が着いた頃、自宅ガレージには父のレーシングカーがあり、小さなニックも興味を持った。

3歳のある日、体調を崩していたニックは夜中に目覚めてしまう。その時、母がたまたまつけたテレビから、F1の生中継が目飛び込んできた。それからF1のある日は、いつも夜中に起きてテレビに釘付け。そんなニックの家からクルマで5分という所には地元のカート場があった。週に何度もその前を通るうち、“一度試しに乗ってみるか”ということになる。

父の友人の息子が始めたばかりのカートに乗せてもらおうと夢中になった。父は自分のレーシングカーを売り払い、ニックのカートを購入。家族の趣味として、ともに国内のカート場を巡りながらレースを続けることになる。史上最年少でノースアイランド、そしてニュージーランドのタイトルを獲得。多くのキーウィ・カーターたちが、オーストラリアのV8スーパーカーシリーズを目標とする中、ニックはシングルシーターを夢見ていた。

そのニックが受講してスカラシップを得たのが、雑誌『スピードスポーツ』のオーディション。フォーミュラ・ファーストのウィンターシリーズで準備をし、その後同シリーズに1シーズン出場できるというものだった。ここで好成績を納めたニックは、さらに雑誌社のサポートを受けてスポンサーを開拓。フォーミュラ・フォードなどを経て、2011年にニュージーランドでは最高峰のフォーミュラカーレース、トヨタ・レーシングシリーズへとステップアップを果たした。

この時、ライバルとしてともに戦い、翌年から大の仲良しになったのがクビアト。北半球のオフシーズン、多くのヨーロッパドライバーたちが真夏の南半球にレースをしに来ており、激戦となっていた。そんな中、ニックは初年度にシリーズ2位。2年目と3年目はチャンピオンを獲得する。最初の年を終えた時には、賞典としてフォーミュ

ラ・ルノーのルーキーテストに参加する権利を得た。たった1日だけの走行で42台中2番手のタイムを記録。その直後には、フェラーリ・アカデミーのテストにも参加し、抜群の速さを見た。

だが、アカデミー入りの条件は、翌年のレース資金をフェラーリと折半すること。ニックはそれを用意することができなかった。見かねたチームのフォーテックが資金を持っているというマネージャーを紹介してくれたが、その資金はわずか2〜3戦で底をつき活動を休止。“ヨーロッパでもやっていける”という自信はあったが、なかなかチャンスに恵まれなかった。イギリスで一人暮らししたくても、アパートの家賃を払うだけの金がない。結局、ミルトン・キーンズに住む大叔母の家に間借りして、機会を待つことになった。

この時、近くに住んでいたのがクビアト、カルロス・サインツ、アレックス・アルボン。アントニオ・フェリックス・ダ・コスタもクビアトのルームメイトだった。ニックは彼らと同じジムに通っていただけでなく、時折ともに外出。クビアトがレースに出かける時は、空港までの送り迎えを買って出た。翻って、自分は3月にGP3のテストをした後、7月と10月にスポットでそれぞれ別のチームからF3に出場しただけ。その先のキャリアは全く描けなかった。だから一旦はレースを諦めようとしたのだ。

だが、クビアトの助けて2014年にはフォーミュラ・ルノー2.0に5大会出場。そこからは、ルノーの新しいF3エンジン開発を担当することになるなど、乗車の機会が劇的に増えていく。Tスポーツから連絡があり、ユーロF3にスポット参戦したのもこの年。マカオにも同チームから初出場し、いきなり3位表彰台を獲得した。このパフォーマンスを見たトムスから連絡があり、12月23日〜24日には富士スピードウェイでF3のオーディションテストに参加することに。その結果、本採用の通知がもたらされたのは、12月25日。『今までで最高のクリスマスプレゼント』だった。

こうして来日したニックは、2015年に全日本F3タイトルを獲得。翌年からはスーパーGT500に参戦を開始し、わずか2年目でタイトルを獲得した。また、一昨年には全日本スーパーフォーミュラ選手権にもステップアップ。2年目の昨年、早くもタイトル争いを演じている。今季はチームを移籍したが、その力強さは相変わらずだ。「今年はホンダの方が少し強そうに見えるから、誰も僕のタイトルを期待していない。その分、去年と違ってプレッシャーはないんだ。だから、逆に思い切り戦えるし、最後まで諦めないよ」とニック。国内でトリプルクラウンを獲得するのが、今の第一目標だ。もちろん、その後は世界のレースにも目を向け始めている。



協力: VANTELIN TEAM TOM'S

DOCOMO TEAM DANDELION RACING

ドコモ・チーム・ダンディライアン・レーシング

1 山本尚貴 Naoki YAMAMOTO 1988年7月11日生 / 栃木県



DOCOMO DANDELION M15 SF19

昨年の最終戦で劇的な逆転勝利により、2013年以来2度目の王者に輝いた。今季8年間に在籍したTEAM MUGENを離れ、新天地でも実力を発揮。連覇の期待がかかる。

http://www.naoki-yamamoto.com



5 福住仁嶺 Nirei FUKUZUMI 1997年1月24日生 / 徳島県



DOCOMO DANDELION MSY SF19

スーパーフォーミュラには昨年デビューしたが、F1直下のF2とのかけもちだったためフル参戦は今季が初。山本とともにチームを移り、第2戦で初入賞、第3、第5戦でも入賞した。

https://twitter.com/nirei_fukuzumi



KONDO RACING

コンドー レーシング

3 山下健太 Kenta YAMASHITA 1995年8月3日生 / 千葉県



ORIENTALBIO KONDO SF19

2016年に全日本F3王者となり、翌年スーパーフォーミュラに。その年の第4戦もてぎで初のポールポジションを獲得。今季開幕戦で3位表彰台、そして前戦の第6戦で初優勝を果たした。

http://kentayamashita.jp



4 国本雄資 Yuji KUNIMOTO 1990年9月12日生 / 神奈川県



ORIENTALBIO KONDO SF19

2016年に初優勝を含む2勝を挙げて王座に就いた、現役では最年少のチャンピオン。今季、8年間に在籍したセルモインギングから移籍し、第2戦でポールポジションを獲得した。

http://yujikunimoto.com



UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

ウオモ スノコ チーム ルマン

7 中山雄一 Yuichi NAKAYAMA 1991年7月25日生 / 東京都



UOMO SUNOCO SF19

FIA F2に出場するアーテム・マルケロフに代わり第6戦から出場。スーパーフォーミュラは2014年から3年間参戦、昨年の第5戦以来の復帰で今年はスーパーGT500クラスに参戦。

http://yuichinakayama.jp/



8 大嶋和也 Kazuya OSHIMA 1987年4月30日生 / 群馬県



UOMO SUNOCO SF19

2011~12年にTEAM LEMANSに在籍し、2017年より再びチームに加入。名門復活に向けてチームを牽引する。今季は第2戦で3位入賞。さらなる躍進が期待される。

https://twitter.com/oshima_kazuya



TEAM MUGEN

チーム・ムゲン

15 ユーリ・ビップス Juri VIPS 2000年10月8日生 / エストニア



TEAM MUGEN SF19

カートからF4、F3と進み、今季はレッドブル・ジュニアチームのメンバーとしてF3ヨーロッパ選手権でランキング4位。今回、パトリシオ・オワードに代わり初参戦が決まった。

https://www.jurivips.com/



16 野尻智紀 Tomoki NOJIRI 1989年9月15日生 / 茨城県



TEAM MUGEN SF19

デビューした2014年に初優勝し、一躍注目の存在に。翌年から毎年ポールポジション獲得と速さは折り紙つき。5年間に在籍したチームから今季移籍し、開幕戦と第4戦で4位入賞。

https://twitter.com/tomoki_nojiri



REAL RACING

リアル レーシング

17 塚越広太 Koudai TSUKAKOSHI 1986年11月20日生 / 栃木県



REAL SF19

2012年にチャンピオンを争い、惜しくも2位に。翌年から現チームに移籍し戦ってきた。開幕戦に出場したトリスタン・シャルパンティエに代わり、第2戦から復帰した。

http://www.tsukakoshikoudai.net/



carrozzeria Team KCMG

カロツツェリア チーム ケーシーエムジー

18 小林可夢偉 Kamui KOBAYASHI 1986年9月13日生 / 兵庫県



KCMG Elyse SF19

F1で活躍後、2015年にスーパーフォーミュラへ。優勝目前まで行くと、まだ勝利はないが、今季は第3戦、第5戦で2位入賞。2016年からは世界耐久選手権(WEC)でも活躍している。

http://www.kamui-kobayashi.com/



ここに注目!

第7戦 鈴鹿サーキットの見どころ
タイトル争いは5人。有力候補の3名の動向に注目

全7戦の6戦を終え、すべて優勝者が違うという混沌とした戦いとなっている今シーズン。新シャシーSF19の登場で、SF14時代とは違う顔ぶれが表彰台に上がるシーンも多く、最終戦でも誰が勝つか、タイトルの行方も予測不能といえる。

最終戦では優勝者に3点のボーナスポイントが与えられる。ポールポジション (PP) 獲得の1点と合わせ、獲得できる最大ポイントは14点。その点差内であればタイトルの可能性がある。

現在29点でトップは、前年度チャンピオンの山本尚貴。1点差の2位にニック・キャンディ、4点差の3位にルーキーのアレックス・パロウ、8点差の4位に前回の岡山で初優勝した山下健太、10点差の5位に小林可夢偉。この5人にタイトルの可能性があり、自力での獲得権利があるのは山本、キャンディ、パロウの3人。キャンディとパロウは最大の14点を獲得すれば2位に入ったドライ

バーに対して6点多く獲得でき、トップの山本が2位で走り切っても逆転が可能だ。

だが、鈴鹿はオーバーテイクが難しいコースということもあり、やはりグリッドが重要。グリッドを決める予選はノックアウト方式で、最大のカギはメディアムタイヤで争われるQ1。今季からは20台中8台が敗退すること、より厳しくなっている。そのQ1は、今年のSUGO大会、岡山大会と同様2組に分けて実施され、従来のくじ引き方式ではなく、ランキング順にA組、B組に振り分けられる。ただし、順に振り分けでも、2台体制の場合にはチームメイトと同じ組にはしない。

また、Q1の予選時間はSUGOや岡山と同様各組わずか10分。10月後半に入って、気温・路面温度ともにグッと冷え込んできている上、鈴鹿は全長が5.807kmと長いので、タイヤのウォームアップ時間もかかると思われる。誰がどのタイミングでコースに入るのか。アウ

トラップを含めて何周タイヤを温めてからアタックに入るのかなど、細かく注目すると面白さは倍増するだろう。今季は思わぬドライバーがQ1やソフトタイヤで争うQ2で涙を呑むことがたびたび起きている。ランキング上位ドライバーは誰がQ3まで進むのか。

上位者が進出した場合注目なのは、山本とパロウだ。山本は最終戦に先立つ10月11日、F1日本GPのフリー走行1回目 (FP1) で鈴鹿を走行。1分32秒018というタイムを記録している。これは開幕戦で牧野任祐が出したPPタイム、1分36秒060よりも約4秒速い。4秒速い世界を経験してから臨むスーパーフォーミュラは感覚的に余裕を持って走れるはず。また、今季2回のPPを獲得しているパロウも、逆転タイトルのためには3回目のポールが欲しいところ。

一方、決勝レースではタイヤのスペック交換が義務付けられる。シーズン中盤過ぎまではスタートからわずか1周でタイヤ交換を行ない、そこからリフト&コースト走法 (アクセルを緩めて惰性で走る) を組み合わせて後方グリッドから浮上する作戦を取るドライバーも多かった。だが、前戦岡山からは、スタートからある程度の周

回をしなければピット作業がカウントされないよう、特別規則が変更。今回の鈴鹿では、トップが7周回を終えたところから、最終周回に入る前までにピット作業を行なわなければならない。

事実上、作戦としてはスタートでソフトをつけて終盤まで引っ張るか、メディアムでスタートしてミニマム周回でソフトタイヤに交換するかの2者択一となる。岡山の場合には、セーフティカーラン中にスタートで装着していたソフトからメディアム、そして交換したばかりのメディアムからソフトと変則で2回タイヤ交換を行なったドライバーもいたが、鈴鹿の場合にはセーフティカー導入の可能性があまり高くないからだ。

そこで注目したいのはゲームメーカーのキャンディ。ここまでの6戦、キャンディはグリッドが後方であっても挽回してきている。前戦はノーポイントだったが、今回も力強さを見せてくれるだろう。また、ランキング5位の可夢偉にも注目。毎回のように見せる華麗なオーバーテイクは、世界でも稀有なドライバーであることを証明している。グリッドが最前列でなくとも順位を上げてタイトル争いに絡んでくれるはずだ。

Team Pit

—— ピット割り

WTCR					WTCR									3/4		WTCR	38/39		WTCR		16/15					19/20			1/5		WTCR				36/37			7/8		WTCR				64/65			18		WTCR	17			50/51	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52			
1st Corner																																																						

Starting Grid

—— スターティンググリッド

自分でGrid表を完成させよう!

2	No.	4	No.	6	No.	8	No.	10	No.	12	No.	14	No.	16	No.	18	No.	20	No.
1	No.	3	No.	5	No.	7	No.	9	No.	11	No.	13	No.	15	No.	17	No.	19	No.



: Twitter



: Facebook



: Instagram



は今季スーパーフォーミュラルーキー

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL

イトウチュウエネクス チーム インパル

TOYOTA

19 関口雄飛

Yuhi SEKIGUCHI
1987年12月29日生／東京都

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF19

スーパーフォーミュラにデビューした2016年に2勝し、いきなりチャンピオンを争う。翌年2勝、昨年も1勝と活躍するがまだタイトルの経験はない。今季も第2戦で勝利している。

<https://twitter.com/yuhisekiguchi>

20 平川 亮

Ryo HIRAKAWA
1994年3月7日生／広島県

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF19

2013年に19歳でスーパーフォーミュラにデビュー。昨年2015年以来3年ぶりに復帰し、初のポールポジション、2度の表彰台を獲得。今季第5戦で待望の初優勝を達成した。

<https://twitter.com/ryohirakawa>

VANTELIN TEAM TOM'S

バンテリン チーム トムス

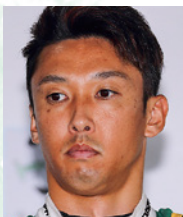
TOYOTA

36 中嶋一貴

Kazuki NAKAJIMA
1985年1月11日生／愛知県

VANTELIN KOWA TOM'S SF19

2012、14年のチャンピオン。父は元F1ドライバーでナカジマ・レーシングの中嶋悟監督。自身もかつてF1で活躍した。昨年に続きル・マン24時間レースで2連覇を遂げた。

<http://www.kazuki-nakajima.com/>

37 ニック・キャシディ

Nick CASSIDY 1994年8月19日生／ニュージーランド



VANTELIN KOWA TOM'S SF19

2017年にスーパーフォーミュラにデビュー、昨年は富士で初優勝し、タイトルを争った。今季、コンドレーシングより移籍し、開幕戦で優勝。悲願の初タイトル獲得なるか。

https://twitter.com/nickcassidy_

JMS P.MU/CERUMO・INGING

ジェームス ピーエムユーセルモインギング

TOYOTA

38 石浦宏明

Hiroaki ISHIURA
1981年4月23日生／東京都

JMS P.MU/CERUMO・INGING SF19

2015、17年のチャンピオン。現役では最年長ながら実力はトップレベルで、昨年も第5戦もてぎで優勝し、最終戦までチャンピオンを争った。今季は第3～5戦で入賞している。

<https://ameblo.jp/ishiura/>

39 坪井 翔

Sho TSUBOI
1995年5月21日生／埼玉県

RANKING 8 POINTS 12

JMS P.MU/CERUMO・INGING SF19

昨年、圧倒的な速さと強さで全日本F3王者に輝き、今季スーパーフォーミュラにデビュー。第4戦で2位表彰台と注目の存在だ。スーパーGTでも今季GT500クラスへ昇格した。

<http://xyz-one.jp/tsuboi/>

B-Max Racing with motopark

ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク

HONDA

50 ルーカス・アウアー

Lucas AUER 1994年9月11日生／オーストリア



Red Bull SF19

RANKING 6 POINTS 14

ドイツ&ヨーロッパF3を経て、DTM(ドイツツーリングカー選手権)で活動。今季、初参戦し、第3戦で3位に入った。元F1ドライバー、ゲルハルト・ベルガーの甥に当たる。

<https://twitter.com/lucasauer1>

51 ハリソン・ニューウェイ

Harrison NEWEY 1998年7月25日生／イギリス



GOLDEX TAIROKU RACING SF19

RANKING 15 POINTS 6

F3やスポーツカーレースで活動し、今季、日本のレースに初参戦。前戦の第6戦で3位表彰台の初入賞を果たす。父はレーシングカーデザイナーのエイドリアン・ニューウェイ。

<https://www.harrisonnewey.com>

TCS NAKAJIMA RACING

ティーシーエス・ナカジマレーシング

HONDA

64 アレックス・パロウ

Alex PALOU 1997年4月1日生／スペイン



TCS NAKAJIMA RACING SF19

RANKING 3 POINTS 25

2017年に全日本F3に鮮やかなデビューをし、昨年はF3ヨーロッパ選手権を戦う。今季スーパーフォーミュラ初参戦。第4戦で初優勝を遂げ、チャンピオン獲得も射撃圏内にある。

<https://www.alexpalou.com>

65 牧野任祐

Tadasuke MAKINO
1997年6月28日生／大阪府

TCS NAKAJIMA RACING SF19

RANKING 16 POINTS 6

カート時代に頭角を現し、2016年に全日本F3へ。ユーロF3を経て昨年はFIA F2を戦い、日本人初のレース1優勝。今季デビューの開幕戦でポールポジションを獲得した。

<http://team-tadasuke.com/>

千代勝正が語る 鈴鹿サーキット

コースレコード更新なるか

SF19では、鈴鹿の1コーナーはほぼ全開。そこから2コーナーに向けて、大きな縦Gと横Gを感じながらブレーキングします。2コーナーではS字に向けてスピードを乗せて行くので立ち上がり重視。左フロントタイヤに力がかかって、アンダーステアが出やすいので、クルマが決まっているかどうかが見やすい場所でもあります。

S字は1つ目がほぼ全開。3つ目の速度を上げていきたいので、2つ目は少しアクセルオフして軽くブレーキに足を当てるかどうかなんですけど、その時に挙動の変化が起きやすいですね。全体に空力バランスやセットアップの差が出やすいので、観戦ポイントとしてもオススメ。最終戦は気温がかなり低くてエンジンがよく回りますし、空気密度も濃くなってダウンフォースが出るので、この区間で全体的にスピードアップするはず。SF19自体、この1年間、各チームが熟成してきているので、どんな走りが見られるのかより楽しみです。

続く逆バンクは、S字の勢いのまま入りますが、ダンロップ先の立ち上がりを考えて出口はミドルスピード

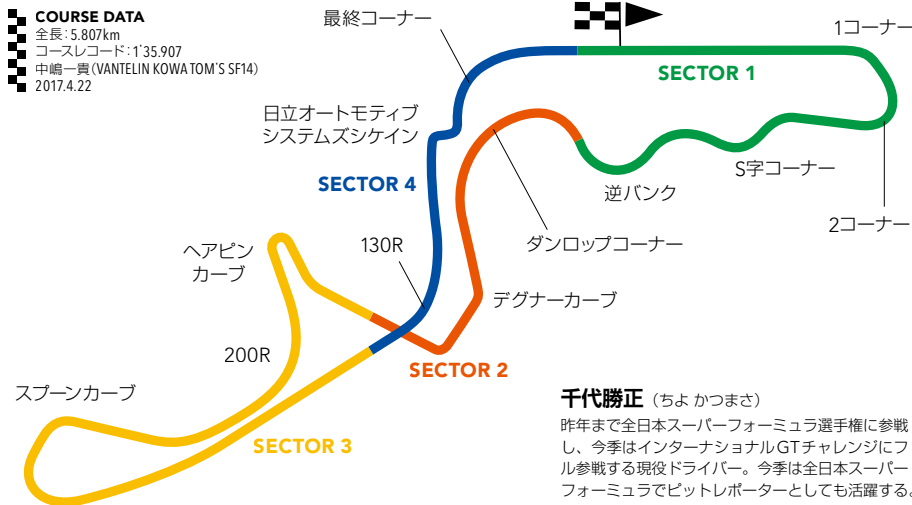
ぐらい。路面のアンジュレーション(うねり)が難しく、アクセルワークに繊細さを求められます。ダンロップは全開ギリギリのコーナーですし、セクター2のタイム差につながる場所です。

デグナーの1つ目は、勇気の必要なコーナーの一つ。ダウンフォースとクルマを信じて、度胸一発で入って行きます。2つ目は突っ込みがちになりますが、フルブレーキでしっかり止めることが大切。立ち上がりでリヤが滑りやすいので、それをコントロールしていきます。ヘアピンもフルブレーキですが、フロントがロックしやすいですね。またレースでは出口で結構滑るので、トラクションをいかに上手にかけるかも重要です。ドライバーによってライン取りが違うので興味深いですよ。

スプーンの1つ目は、デグナーの次に飛び込みスピードが高い場所。コース幅いっぱい使って進入していきます。2週間前のF1でも見られましたが、風向きによってはここがオーバーテイクポイントになる可能性も。スプーン2つ目に向けては旋回しながらのブレーキングが難しいんですが、バックストレートのスピードに直結するので、立ち上がりはとても重要です。

130Rは全開。今ではコーナーではなくってしまいました。そしてシケインですが、ここは色々な走り方が

COURSE DATA

全長:5.807km
コースレコード:1'35.907
中嶋一貴(VANTELIN KOWA TOM'S SF14)
2017.4.22

千代勝正 (ちよかつまさ)

昨年まで全日本スーパーフォーミュラ選手権に参戦し、今季はインターナショナルGTチャレンジにフル参戦する現役ドライバー。今季は全日本スーパーフォーミュラでピットレポーターとしても活躍する。

ある場所。1つ目と2つ目の間で加速するかしないか、1つ目の縁石を使うか使わないかなど、ドライバーが工夫しやすいコーナーですし、セットアップ関係なくコンマ

2〜3秒縮められる場所です。

開幕戦では少し届かなかったんですけど、最終戦ではSF19でコースレコードが出るかどうかに注目。今シーズン、とにかく速さを見せているアレックス・パロウ選手と、日本GPでF1のFP1(フリープラクティス1回目)の走行を経験して、また違う世界を見た山本尚貴選手の攻撃が楽しみです。

レースではニック・キャシディ選手と小林可夢偉選手の速さと戦略に期待しています。

過去4戦の結果 (優勝者 | PP)

2019 Rd.1	ニック・キャシディ (VANTELIN KOWA TOM'S SF19)	牧野任祐 (TCS NAKAJIMA RACING SF19)	2018 Rd.7	山本尚貴 (TEAM MUGEN SF14)	山本尚貴 (TEAM MUGEN SF14)	2018 Rd.1	山本尚貴 (TEAM MUGEN SF14)	山本尚貴 (TEAM MUGEN SF14)	2017 Rd.7	—	—
										Race 1 A.ロッテラー (VANTELIN KOWA TOM'S SF14)	Race 2 J.マードンボロー (ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14)

